

研究主題：主体的、対話的で深い学びの実現を目指して（2年次）

～TANKYU～

谷地南部小学校
校内研究だより
2022. 9. 28
No.21 文責 荒木秀

学びのオーナーシップ

先生方のアンケート（「行動の記録」詳細は、TANKYU no.19）が集まるまでのつなぎです。

先日、中間休みの終わりごろのことです。1年生が体育のためにグラウンドに出てきました。そして、全員がそろそろ、自分たちだけで準備体操を始めたのです。

私は感動で、小林先生に「すごいですね。1年生のこの時期に自分たちだけでできるなんて。」と声をかけました。小林先生からは、「自分が楽するため。これでも遅いくらい。」と返事が返ってきました。謙遜されてのお言葉だとは思いますが、でもとても大切なことだと私は思いました。先生からの指示がないと動けないでは、本当に主体的な姿とは言えません。自分たちで考え「未来をひらく」大人にはなれません。子どもたちに委ね、子どもたちが自分たちで判断し実行する「オーナーシップ」を持たせたいですね。



でも、子どもたちに委ねるって不安もありますよね。「ごまかしたりしないかな。」「ちゃんとできるかな。」小林先生は、子どもたちだけの体操が終わった後に、アキレス腱をもう一度伸ばすように指示を出していらっしゃいました。子どもたちの様子を見て、これは必要だと判断されてのことと思います。これでいいのだと思います。出来ていないことがあれば、教師が教える。これが「教師の出」なのではないでしょうか。きっと、1年生の子どもたち、次回の準備体操のときには、アキレス腱も丁寧に伸ばすでしょうね。楽しみです。できなかつたら、また教えればいいんです。

5年生の体育「持久走」は、インターバル走を中心に行っています。いつ走るかは、子どもたちに委ねています。「子どもたちに任せたら、ズルして走らない子もいるんじゃないか。」「運動量、確保できるかな。」私自身、不安もありました。でも思い切って、やってみました。もちろん、何のために練習するのか、その目的はしっかりと伝えてからです。不思議ですねえ、いつもより走る回数が増えた子がたくさんいました。先生方、思い切って子どもたちに任せてみませんか。

以下、教頭先生からいただいた資料です。→
裏面にも続きます。